

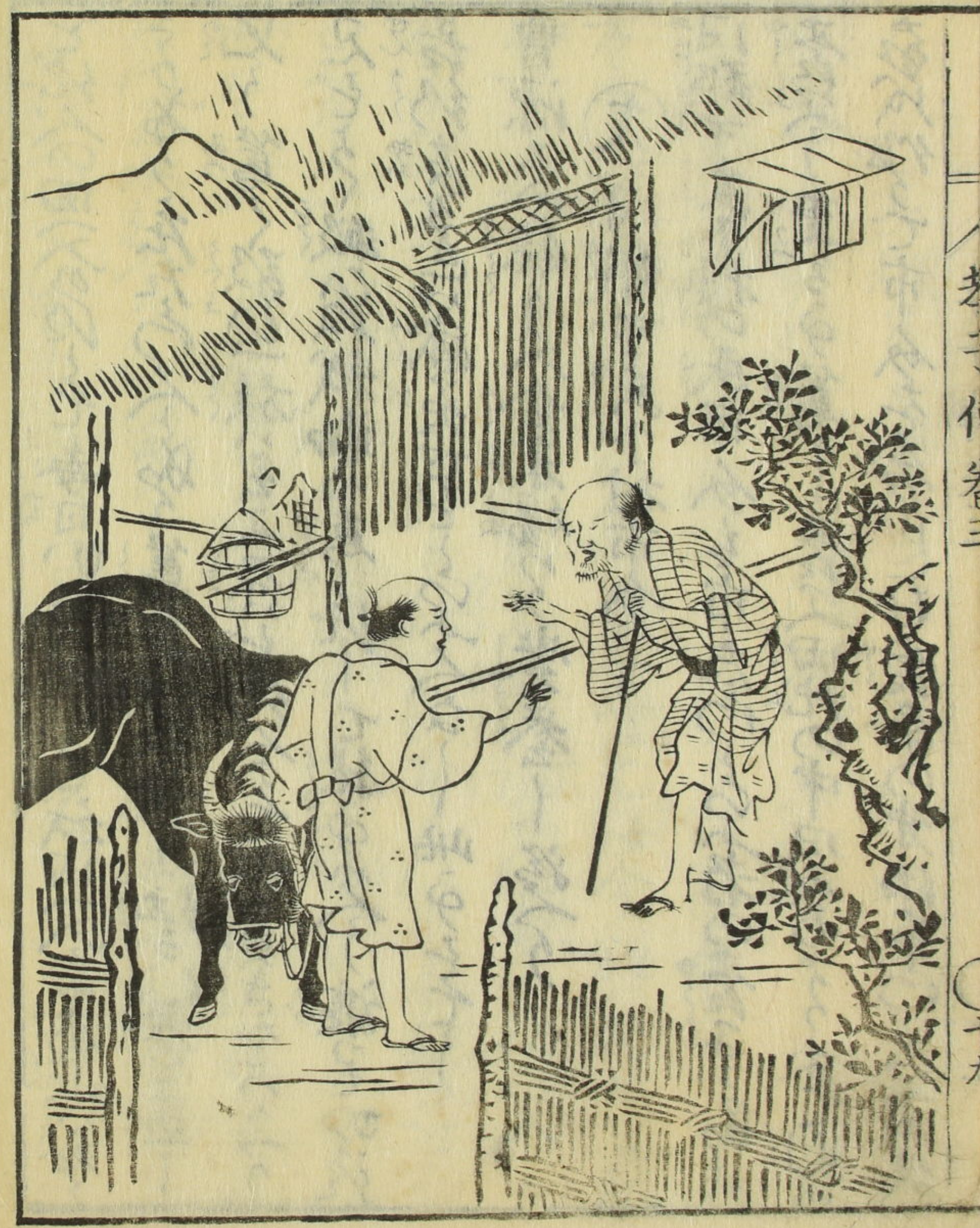
本朝孝子圖會

五



9
3743
5

同社立献状三歩ある代銀百三拾文は、當座より八年以
 より彼久米清が加地子三斗二升に、つづいて他と物にて銀
 せり、然るに久米清極めて貧しく、八年中加地より
 一も店たつて出さざりし其後久米清に他らせを、
 久米清父子よりわけて毎々糧足らざればとて、
 今麦稗といふも、さうて今も店たつて子と市布
 にひぬるも、我々貧しくぬるは、いふに汝等貧ある
 所、汝等と清みあて、田畑と市布とを、
 を賣て不足をくみ、
 と、
 五年已前、
 銀百六拾文借りあり、
 六文の金



う恐る治方のみきりゝんとて其の方み半紀ゝぬき
 市々半を求めて帰るぬ其餘おくの公附たる舊宅に
 多己若き父死して次なる其恐るをあらぬ其後次なる
 多貢不足せしうゝるをあらぬとて市々其若に實さ
 る田地を其秘れ田地をけりゝぬとて多貢不足せし
 とて多貢けりゝる其米を以て次なる米を多貢
 に捧ぐ其外も次なる借銀多く難義ありしを主婦
 其の衣服など貨に賣りて其を以てけりゝぬとて次なる
 涙せつゝきりゝる市々を患て主婦もに次なる方
 一石はうり地をきりゝて其父の恐るを継ぐやんを欲

たり其兄弟の志をくみおろし其母への孝行一が
後重なるもの其母が死に体づくろふに一村
の若し甚感し既り 曹源云此國に達し白銀若千の
えらき金を獲て賣り給ふ

十九 和志郡下田村五希右衛門

和志郡下田村五希右衛門と云ふ者あり親り孝ありて兄
分睦し二十七八年を名に父死後其田地を三ツに分ち二
人の分み其母の田畠をわき其父の田をとりぬ母を
おぼえて居る時に新に家持ぬき何ふ費も多きかと思
ふ二季に其分の多貢を五希右衛門より捧ぐるべし

ある分を毫もあらず若立希右衛門の如に思ふものなり
三人の分よりおれをけある兄分三人甚初らきむん
く母みはるものを重なり其腹に起ぬるに自らたけ
休んど食物も母にやるといふ自ら食せど母より入
れぬるをぬにやるといふ母の食物より母にとむと
おれを重なり其いと食せりかく孝友篤と云ふ一村の人
称しあり既り 曹源云此國に達し白銀をい
へらき金を獲て賣り給ふ

二十 和志郡下田村五希右衛門

和志郡下田村五希右衛門と云ふ者あり親り孝ありて兄
分睦し二十七八年を名に父死後其田地を三ツに分ち二
人の分み其母の田畠をわき其父の田をとりぬ母を
おぼえて居る時に新に家持ぬき何ふ費も多きかと思
ふ二季に其分の多貢を五希右衛門より捧ぐるべし

廿二 日那伽村惣老の

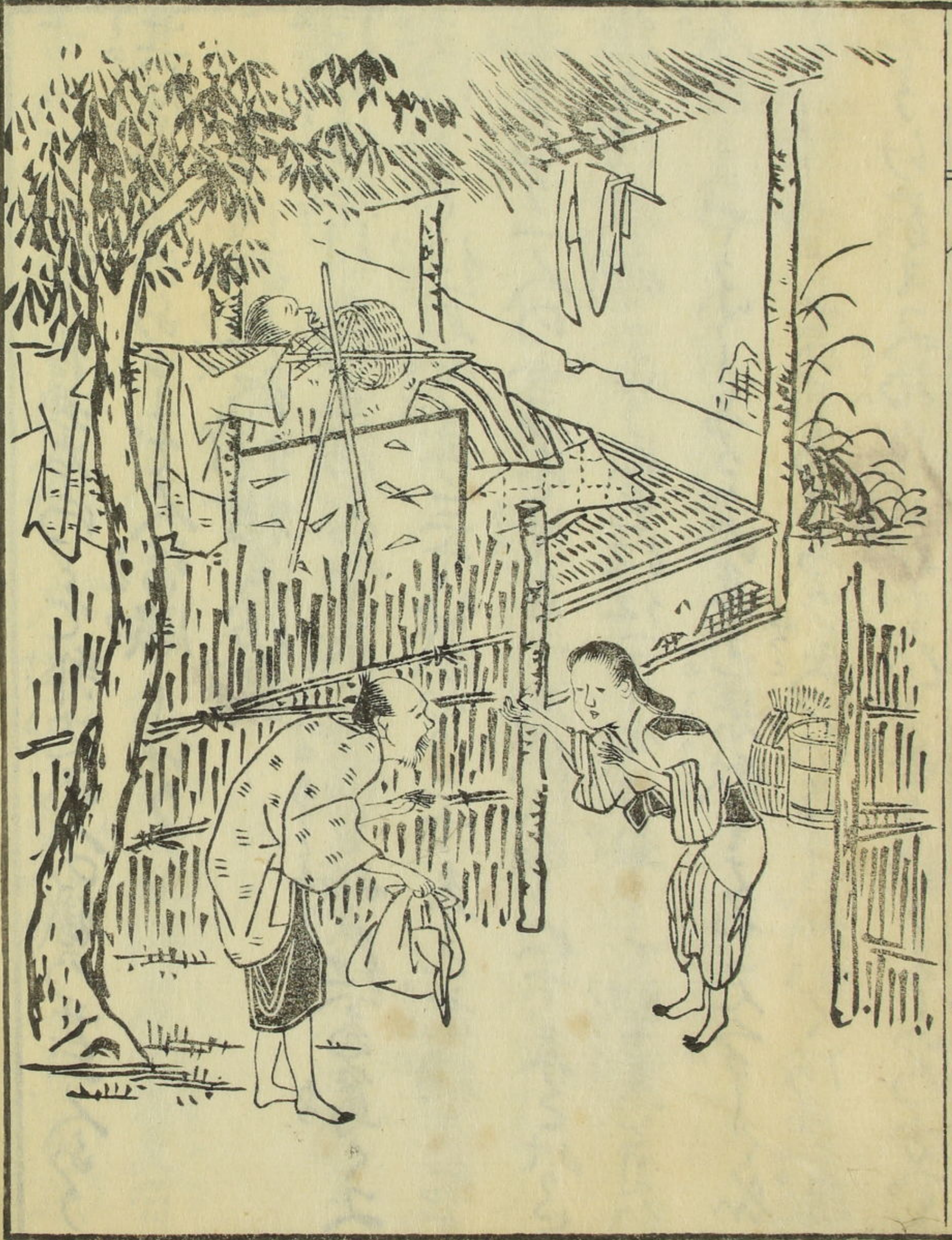
日那伽村は位々惣老のつと半にわする父母あり付のそ父母は老いたるもあつたる孝公あり其老いたるも又老いたるも父母の所を公の及ふけいといふに公は公のふくむををとう冬に我子と履して其つとまうぬふ父母を履しむ惣老のつと孝公あり多るを妻より石は男女やでも皆しつとくして老る父母を教ひ多一村をみ及いと一郡を隣皆称しあり

曹源云々一歩の白狼を湯ふ彼老い肥後彦の孝有吉氏の一族ありとふ世々大里の磯にわが其子孫

十女が老父有孝惣老のつと邦内み人の磯に其二人あり其操の慮あるも人皆服しけり

廿三 日那伽村猪を湯妻

日那伽村は猪を湯とる氏の妻男姑は年々又まゐりてはぬ今年三十八歳あり二十年に猪を湯が妻あり一人の女子をせむ十歳にありぬ十年に猪を湯麻痺ありぬ是に仕へて公を湯て醫業と用ひ女抱まりやふしあるが六歳に果敢とるやんろく公は親う即してのそありまひのあり我のく病をうけおるも又抱めて負しひはまろつたつ方へ



片附とてろく云々ども中く再にも入を只その
病のの款さうおよく負しくぬきべん婢
とある三年は一俸銀一疋も病に男若たの病
内をさひちり其後病にうてさうかせたきとも渡世
つぎの病に男若とま上一向の片付せよと云々まの
病をん捨あつうと病をん其すにてありぬ其は
又姑も病をぬきまの病のひひりして勢働きぬけ
親親ありがうと見れば病をん人病をん人病をん
の分じくと家の外へ出まどうけにたりまはかぬ病をん
をくぬ其は一か病をん抱してををををを

姑みはるるのみ叔奉まめやにあらざる人皆感せしむる
ふふ一をを 曹源云圓石其感祿一終ひて念米若
于錫りぬ

廿四 日村彦三郎

日村彦三郎と云若老母みはるる孝ありけりといふあり
いと甚志ふくまへ人皆彦三郎を老人とて事あり兄分
叔多ありけりといふも是れ何てなりけりといふに彦三郎元来
或時一人の分そこなくれ損失するのみ一に彦三郎元来
貧しきも人のあらざるやとそと救ひぬ母をくぬ
圓石しむし母のさふふをよりしと悲しめて也といふ

おと孝にぬ心強めり若め人皆彦三郎がけりといふ
伝て見へるなり 曹源云彦三郎一入るる白銀も入
らざる其孝物を賞し終ふ

廿五 津島郡中田村九郎左衛門

津島郡中田村み九郎左衛門と云老母をくぬ孝ありけり
又は一我に食中と云のにて母の喜ませり有散り度
て見へる也其主人は彼が志を知りあまはみ感して憐
れを加ぬる事と奉ふ意と朋輩に和し十年のまうい
と云家又はるる母極めて孝老ぬる有けりといふ家
又ゆく耕し其勢荒みぬえぬ精を出しける九郎左衛門が

妻男を一人生ましうども母のこゝ叶ざる所離縁け
 つ一里の若ふと子もあひあひ呼入せとさまぐいさう
 九希ちあゝ母のこゝ叶ぬゆゑ出ぬともかくもあつて
 母のこゝ叶ふことよくく其男はなごに致さるゝ
 最ふれとまひより其里の若ともあゝ妻うかくと語りて
 ともよくとあひさる所其すゝいあやめ其後又妻を娶ふ
 一は又母のこゝ叶はまゝ出ぬとよくあひさるゝにさるゝ
 あり或時疾ふ人ゝ寝るおろいゝをきて母も寝るこ
 くふゝ寝る酒屋の戸をさきてあつた孩も酒を
 んと酒のふまづの独り酒を飲とて人の寝るを起

一は又母のこゝ叶はまゝ出ぬとよくあひさるゝにさるゝ
 あり或時疾ふ人ゝ寝るおろいゝをきて母も寝るこ
 くふゝ寝る酒屋の戸をさきてあつた孩も酒を
 んと酒のふまづの独り酒を飲とて人の寝るを起
 一は又母のこゝ叶はまゝ出ぬとよくあひさるゝにさるゝ
 あり或時疾ふ人ゝ寝るおろいゝをきて母も寝るこ
 くふゝ寝る酒屋の戸をさきてあつた孩も酒を
 んと酒のふまづの独り酒を飲とて人の寝るを起
 一は又母のこゝ叶はまゝ出ぬとよくあひさるゝにさるゝ
 あり或時疾ふ人ゝ寝るおろいゝをきて母も寝るこ
 くふゝ寝る酒屋の戸をさきてあつた孩も酒を
 んと酒のふまづの独り酒を飲とて人の寝るを起

廿六 日那辛川市場村は花母

日那辛川市場村の民は花母二十九歳の時夫を清く
 たり二人あり其時男平たの年七十二始ふ十二めり男



中花が母のひたひたの汝年と若あま其よりあまきとて
 もつて就る入聲とてふいふんとつて中花が母のひた
 男姑れはひたひたをむらまらせりといひあまきと
 是は指別の事にあまき清原うたふててふまはたど
 りの定め居はし然れども年とつてをむらまらせりといひ
 危し角もつてをば親里へつて給ふて固何方へふ
 といひ嫁とてふいふは但しけりといひ然れども
 此二人をより芳なりやあまき世あまき力を盡し中花を
 熱き清原の流せしことをけりといひ男姑大うよめ
 うけいぬ其男姑はつて孫増やとていふいふ中花

を成人す。其舅姑も美しく一村の若をえど先づ其にて
お返しを感歎あり 曹源云きしりし其賞を

に給ひ白浪と給ひぬ

廿七 日那西幸川村九たの

日那西幸川村九たの。其若あり老母八十五に及ぶ。其
一が老より乞食をて孝あり疾毎に二度二度母の疾
て安きや否を伺ひる日毎に田畠を耕して治ま其より見
顔きを伺ひ朝夕の食のよしが白浪。其母のこの物と
急を入との事あり元より其母も老に及ぶ耕作に及ぶ
能力を盡し年貢など其村に納め云彼母を養て

礼儀と云き若おと村中こころて賞ありあり
孝徳と云き白浪を給り其孝を賞せらる

廿八 日那尾上村源云清源七と七

日那尾上村源云清源七と七。若分二人あり源七と七といふが
三人の兄弟よくその合を和順。二人は母に仕へ孝あり
源七年十六七多岐を別り遠りて其母を養ふ源云
其母よく其母を養ふと云ふ人其母を養ふて其母を養ふ
源云清乃たけとせんとす源七と其別め家におて兄源云
が負いきを父の思ひどとて兄源云清源七つが、其七
ち源云清耕作のたけせうとて其母を養ふ源七の出るは其

なををしあり源を清が家母と兄弟と其相違多ふると
つねに居あふた甥姪とて十八人集居とて皆むつはじ
あま二里の人と涼く感ドぬ 曹源云れ徳み達し白根
湯い多称トらとあり

廿九 日村九玄清

日村九玄清とふ者あり能く田畠かくある貞一あま二
己が耕しとあふつ月す其里人みな云く多う九玄清
母あり是に侍るゝを瓜用い力を盡して孝を致せり九玄清
兄勘十希とふ者あり幼少より病者みて何の用も務む
事につては九玄清公より是を孝といぬ九玄清伯父云清

とふ者あり目もあまなりて日村み居多し初き子たに人
是又極めて貞一ありあま二九玄清己が田地の中田三畝十
歩上畠二十歩五玄清にきりぬさきとも其年貢と云ふ
来さぐらふつとてあま二九玄清多きと云ふぬ己が
さね業あふふく情厚きゆとも皆感称しあふが
曹源云れ徳み達し白根給りて其いさなりと称しあふ

三十 邑之郡豆田村若老の

邑之郡豆田村み居たつとふ者あり父母みはる者あり
初めのまゝいふを附父母れ瓜用いむ極老のりゆ人
食物の好むまゝいふを附父母れ瓜用いむ極老のりゆ人

多く又貧しくて衣服のせんどましくみどるもの
 いさぎよく姑みえづくわい清めて垢附る物と見せ
 子にいつてもみ姑も姑いせうさるやういへるありさむ
 こ疾いとい姑も行めると重きとせ或いはをうた茶
 うどいつめて姑をいせうさるにせめて腹いむ教を公厚
 とりたる者國人感ぜざるか
 曹源云是と聞め

三 倭中野方村清玄清

倭中野方村清玄清の氏清とる者人あり
 貞信に其好いふく又母は(多孝あり或母病に所



